

# 知恵を集める

産学共同  
研究ルポ

今回は新年にふさわしく、国境を越えてエジプトの産業振興に福山市の企業が協力するという、国際的な産官連携事業がスタートした事例を紹介する。取材 和田有史

## 日埃共同で開発協力へ

和紙の糸を使った織物を展開している備後燃糸(株)(福山市芦田町福田872、光成猛社長、電084・958・3355)を昨年12月15日、エジプト・アラブ共和国(通称エジプト)政府の輸出促進機関(EEP C)や日本貿易振興機構(JETRO)の職員と、エジプト人柔道家でロサンゼルス五輪決勝戦で山下泰裕に敗れたモハメド・ラシュワン氏ら4人が訪れ、エジプト特産の「パピルス」を使った糸と織物の開発の協力を求めた。



備後燃糸を訪れたラシュワン氏(左手前)ら。右上はパピルス

エジプトの国内産業は近年、中国製品

に押されて衰退の一途をたどっており、外貨獲得が可能な独自製品の開発が急務とされ、日本の国際協力機構(JICA)とエジプト政府がE E P Cを設立、新技術の創出と新製品開発を模索している。

そんな中、JICAからE E P Cへ派遣されている湯沢三郎シニアアドバイザーが、備後燃糸の和紙系製造の特許技術に着目、エジプト特産のパピルスを使った糸と織物の開発を提案した。

パピルスはナイル川流域に自生する植物で、中国で紙が発明されるまでは、薄く削いだ茎を張り合わせた、世界最古の文字を記録する媒体(紙)として知られている。

エジプトでは今も、「パピルス紙」に縁起物の絵を描いて飾る習慣があり、外国人観光客向けの土産物としても人気があるが、手作業なのとパピルスの長さに限りがあるため細々とした家内工業の域にとどまっている。

当日は、この「パピルス紙」の販売店を営んでいるラシュワン氏が30cmほどの薄く削い

## 和紙糸の特許技術にエジプトが注目 備後燃糸が「パピルス糸」の開発へ

だパピルスと、茎を四つ割にして水に浸したものを持参。乾燥時には折れやすく、水に浸すと強くなるという特徴を説明、光成社長に紙素材としての可能性を尋ねた。

光成社長と、和紙系担当の光成明浩部長は「繊維が麻やコウゾ、ミツマタに似ているから、分析するまで即断はできないが紙や糸にすることは可能だと思われる。弱いところがあれば他の繊維と混紡することで補えるはず」と回答、原糸メーカーや製糸業者とタイアップして研究開発に取り組みことを明言した。

### エジプト発展へ高まる期待

今後はJETROが窓口になって共同研究を主導、試験用のパピルスはラシュワン氏が手配する。

ラシュワン氏は、パピルスが糸や織物として使えることになれば、パピルス栽培の農場を開拓することも視野に入れているとし「エジプトにとって大きな希望となる」と期待を寄せている。

0万人の外国人観光客が訪れており、その7割がヨーロッパからの客。湯沢さんは「ファッションに興味がある彼らが好んで求めるエジプト柄のネクタイやショールなども、ほとんどが中国製品に置き換わっているが、パピルス繊維が製品化できれば国内製造が可能になる。欧州向けに輸出すれば貴重な外貨獲得手段となる。08年は国際アフリカ年で、日本政府も協力している。ぜひ成功させて日埃友好を促進させたい」と意気込んでいる。

日本へ一時帰国した湯沢さんが、ふとしたきっかけで目に留めた備後燃糸の和紙系技術。はるか古代エジプト時代に誕生した「パピルス紙」の技術が、時空を越えて遠い日本の燃糸技術で花開こうとしている。

ロス五輪では、山下選手の痛めた足を攻めることをせず、に敗退したものの、その武士道精神を世界中から讃えられたラシュワン氏が、日本人技術者のサポートで「金メダル」を手にする日も近い。